

小児喘息

診療ガイドライン実践プログラム

概要

本プログラムに関するお問い合わせ先

東京芸術大学保健管理センター内

厚生労働省科学研究事業（免疫アレルギー疾患予防・治療研究）

「ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL 向上に関する研究」班

住所：〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

TEL：050-5525-2457 FAX：050-5525-2534

E-MAIL：office1@guideline.jp

電話問い合わせ受付時間： 月、木 10:00~17:00

お問い合わせはなるべくメールでお願いします。

「ガイドライン実践プログラム」へのご協力をお願い

厚生労働省科学研究事業（免疫アレルギー疾患予防・治療研究）
「ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL 向上に関する研究」班
主任研究者 須甲 松信

近年、アレルギー疾患患者は増加の一途を辿り、医療を超えて社会的、経済的にも大きな問題となっております。この事態に対して、厚生労働省は今後の基本的対策として次のような目標を定めています。

- (1) 患者家族への自己管理手法の普及と相談体制の確保、
- (2) アレルギー診療ガイドラインの制定とその普及、
- (3) 「かかりつけ医」を中心とした医療体制の確立、
- (4) 学会認定のアレルギー専門医の育成と専門医療機関の確保、
- (5) 看護師・薬剤師・管理栄養士などの医療関係者の教育、
- (6) 適格なアレルギー情報の収集と提供など。

このなかでも、「かかりつけ医」を中心とした医療体制の確立、即ちアレルギー患者が初期治療、安定期には身近な「かかりつけ医」が診療し、重症難治例や著しい増悪時には専門医療機関が対応する体制を築くことを重要政策に挙げています。そのためには「かかりつけ医」の先生方にアレルギー診療にも精通していただき、専門医療機関との病診連携を確立することが期待されています。

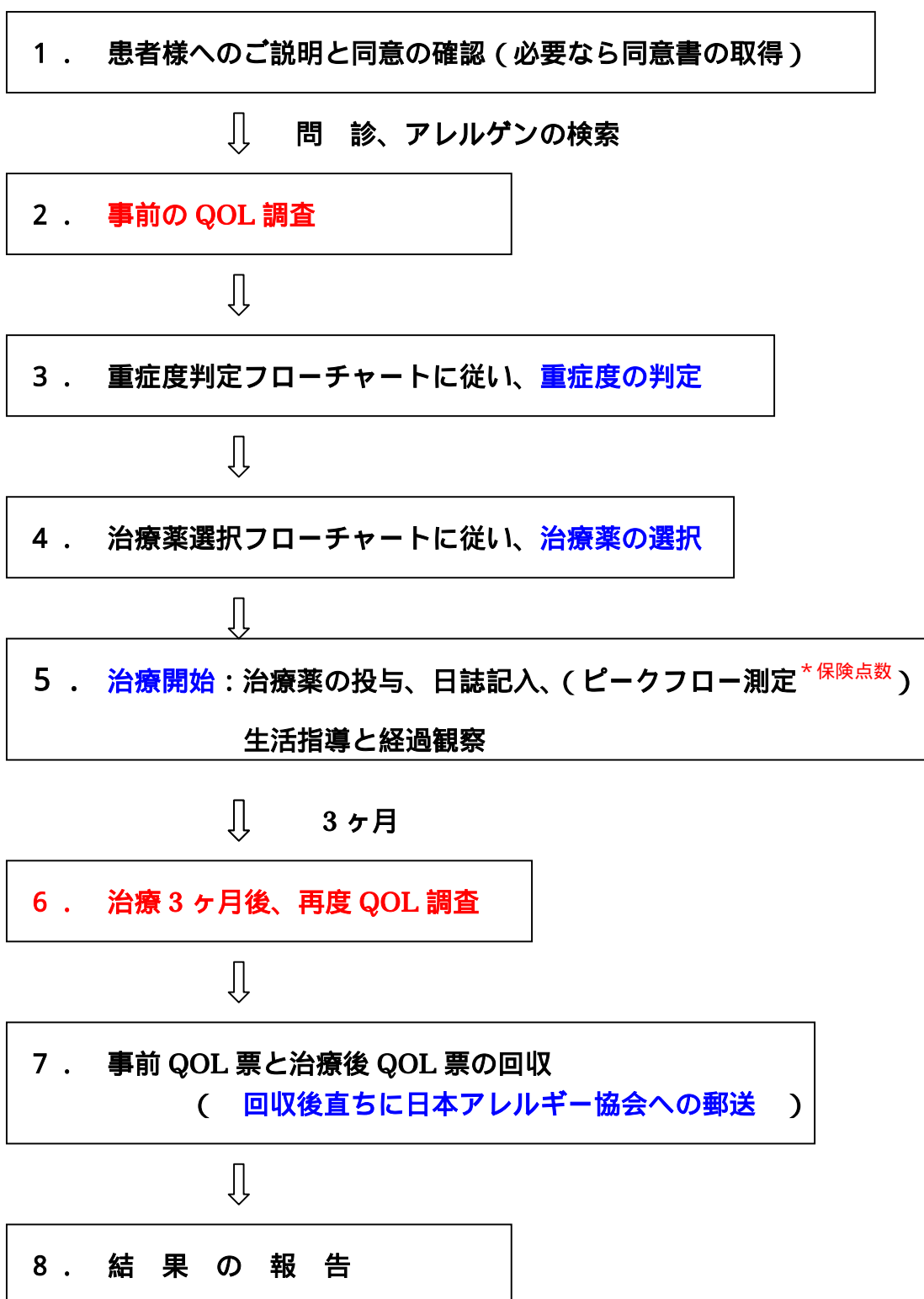
厚生労働省科学アレルギー研究事業「ガイドライン普及のための対策とそれに伴う QOL 向上に関する研究」班は、アレルギー非専門の先生方が診療の場で、実際にアレルギー患者様にガイドラインに即した診療をして頂けるように支援する「ガイドライン実践プログラム」を作成いたしました。このプログラムは、成人喘息、小児喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患に対応して以下の要点から成っております。

1. 診療ガイドラインの重症度判定フローチャートおよび治療選択フローチャートを利用した患者様の**長期管理と QOL 調査**。
2. ガイドラインおよび実践プログラムに関するアンケート調査。

これは、フローチャートに従い患者様の重症度に合わせて治療（薬）を選択していただき、それが患者様の QOL の向上に役立ったかどうかをご評価いただく内容となっております。このプログラムにご参加いただくことにより、診療ガイドラインが体験的に学習され、一層ご理解が深まるものと考えております。

つきましては、是非、この「ガイドライン実践プログラム」へのご参加をお願いいたします。調査結果につきましては、ご協力頂いた先生方、地区医師会様および厚生労働省にご報告いたします。

喘息・長期管理「ガイドライン実践プログラム」の手順



*ピークフローを用いて、計画的な医療管理を行いますと、喘息治療管理料が算定されます。

1月目(初回治療管理)：75点 2月目：25点

小児喘息の診断の目安

症状 : 呼吸困難、慢性咳嗽、喘鳴、



問診 : 現病歴・既往歴・家族歴・職業歴・日常生活歴



原因 / 誘因の推定 :

風邪、運動、気象（寒冷、雨、台風）、大気汚染、煙（たばこ）
におい、過労、心理ストレス、月経、薬物（鎮痛薬を含む）、
食事、アルコール



アレルギー検査 : IgE、RAST、好酸球数など

理学的検査 : 呼吸機能、胸部X線、気道過敏性試験

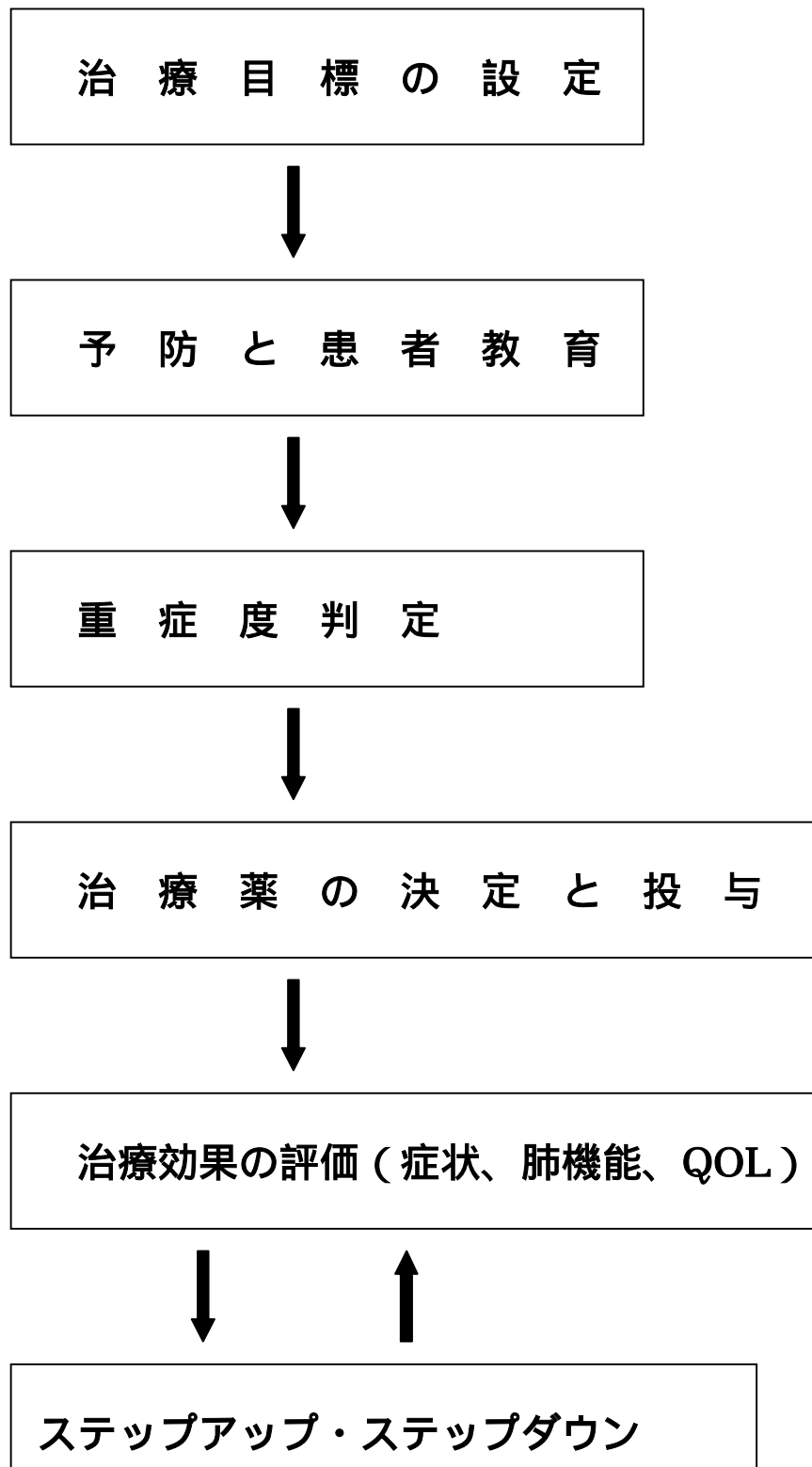
鑑別疾患の除外

気道・心血管系の先天異常・発達異常、過敏性肺炎、
感染症（クループ、細気管支炎、気管支炎、肺炎など）
サルコイドーシス、ABPA、AGA、肺水腫、肺血栓、
気道内腫瘍・異物、声帯機能不全、
薬物性咳、心因性咳、迷走神経刺激など



気管支喘息の診断

気管支喘息の治療・管理ガイドライン

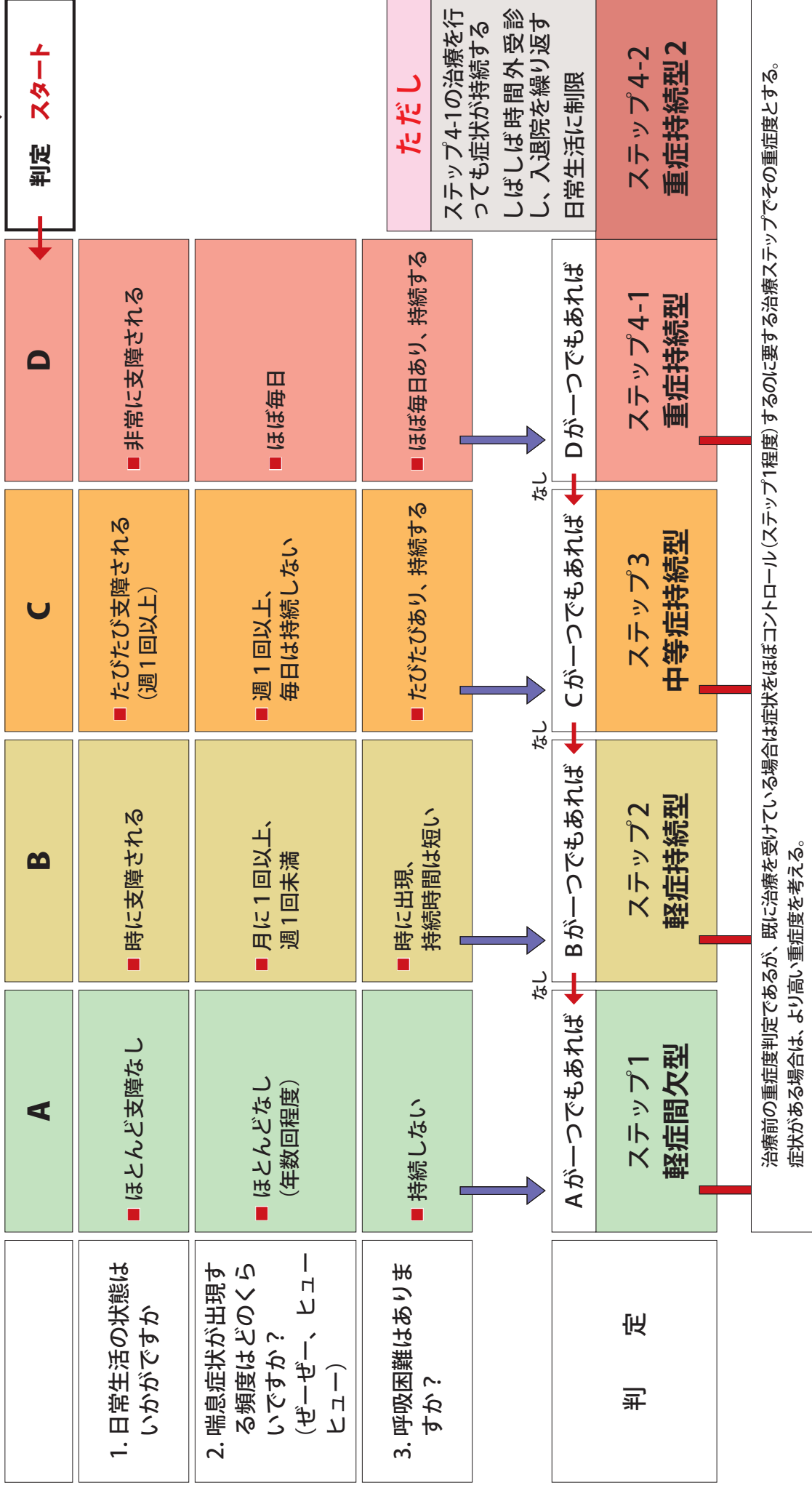


小児喘息の治療目標

- 1 . (軽い)スポーツを含め日常生活を普通に行う
- 2 . 昼夜を通じて症状がない
- 3 . 2 刺激薬の頓用が減少、または必要がない
- 4 . 学校を欠席しない
- 5 . 肺機能がほぼ正常
- 6 . PEF が安定している

小児喘息重症度判定表 (年長児 6歳～15歳)

該当する症状をチェックし、一番右側のチェックボックスから順に判定してください。(E→D→C→B→A)



治療薬選定

	ステップ1 間欠型	ステップ2 軽症持続型	ステップ3 中等症持続型	ステップ4 重症持続型
基本治療	発作に応じた薬物療法	吸入ステロイド薬*2 (100 μg/日) あるいは 抗アレルギー薬*1	吸入ステロイド薬*2 (100～200 μg/日)	吸入ステロイド薬*2*3 (200～400 μg/日) 以下の1つまたは複数の併用 <ul style="list-style-type: none"> ロイコトリエン受容体拮抗薬 テオフィリン徐放製剤 長時間作用性吸入β₂刺激薬 DSCG 貼付β₂刺激薬
追加治療	抗アレルギー薬*1	テオフィリン徐放製剤	吸入ステロイド薬*2*3 (200～400 μg/日) 以下の1つまたは複数の併用 <ul style="list-style-type: none"> ロイコトリエン受容体拮抗薬 テオフィリン徐放製剤 長時間作用性吸入β₂刺激薬 DSCG 貼付β₂刺激薬 	経口ステロイド薬 (短期間・間欠考慮)

*1 抗アレルギー薬：化学伝達物質遊離抑制薬、ヒスタミンH₁拮抗薬、ロイコトリエン拮抗薬、Th2サイトカイン阻害薬に分けられる。DSCG (インタール)と経口抗アレルギー薬を含む。

*2 吸入ステロイド薬：力価はFP (プロピオン酸フルチカゾン：フルタイド)あるいはBDP (プロピオン酸ベクロメタゾン：キュバール)換算とする。

*3 ステップ4の治療で症状のコントロールができていないものについては、専門医の管理のもとで経口ステロイド薬の投与を含む治療を行なう。

●主な小児喘息長期管理薬

薬物の種類		投与方法	製品名
抗アレルギー薬	1. 化学伝達物質遊離抑制剤	経口・吸入	インタール、リザベン、ロメット、アレギサル、ペミラストン
	2. ヒスタミンH ₁ 拮抗薬	経口	セルテクト、ゼスラン、ニポラジン、サジテン
	3. ロイコトリエン受容体拮抗薬	経口	オノン、シンブレア、キプレス
	4. Th2サイトカイン阻害薬	経口	アイピーディ
テオフィリン徐放製剤		経口	ネオフィリン、テオドリップ、テオドル、テオロング
長時間作用性β ₂ 刺激薬		経口	ベネトリン、プリカニール、ホクナリン、ベラチン、メブチン、ペロテック、アトック、スピロベント
吸入ステロイド薬	1. ベクロメタゾン 2. フルチカゾン	吸入	アルブール、メブチン、ベネトリン、サルタノール、アイロミール、セレベント
		貼付	ホクナリンテープ
経口ステロイド薬		吸入	キュバール(HFA-BDD)
		吸入	フルタイド(HFA-FD)
経口ステロイド薬		経口	プレドニン、プレドニゾロン、メドロール、リンデロン、デカドロン、デキサメサゾン、パラメゾン

主なアレルギー治療薬一覧

第1世代抗ヒスタミン薬

エタノールアミン系	
レスタミン	錠、軟膏
レスタミンA	散
強力レスタミンコーチゾン	軟膏
ベナ	錠
ベナパスタ	軟膏
ハイスタミン	注
ダンリッチ	カプセル
プロコン	散、注
タベジール	錠、散、シロップ
ドラマミン	錠
マレイン酸クロルフェニラミン	散、シロップ
アレルギン	
クロール・トリメトン	注
ネオレスタミン	散
ボララミン	錠、散、シロップ、注
レクリカ	錠、シロップ
ベネン	錠、シロップ
ピレチア	錠、散
ヒベルナ	錠、注
フェノチアジン系	
アリメジン	錠、散、シロップ
アンダントール	ゼリー
ピペラジン系	
ホモクロミン	錠
アタラックス	錠、注
アタラックスP	カプセル、散、シロップ
ピペリジン系	
ベリアクチン	錠、散、シロップ
第2世代抗ヒスタミン薬	
エバステル	錠
ジルテック	錠
レミカット	カプセル
ダレン	カプセル
タリオン	錠
アレグラ	錠
アレロック	錠
クラリチン	錠

抗アレルギー薬

メディエーター遊離抑制薬	
インターール	カプセル、細粒、点眼、点鼻、吸入液、エアロゾル
リザベン	カプセル、細粒、シロップ、点眼
ソルファ	錠、点鼻
ロメット	錠、細粒
ケタス	カプセル
アレキサール	錠、シロップ、点眼
ペミラストン	錠、シロップ、点眼
タザノール	カプセル
タザレスト	カプセル
抗ヒスタミン薬系	
ザジテン	カプセル、シロップ、点眼、点鼻
アゼブチン	錠、細粒
セルテクト	錠、シロップ
ゼスラン	錠、細粒、シロップ
ニボラジン	錠、細粒、シロップ
アレジオン	錠、内服液
点鼻薬	
リボスチン	点鼻
トロンボキサンA2阻害薬	
ドメナン	錠
ベガ	錠
トロンボキサンA2拮抗薬	
プロニカ	錠、細粒
パイナス	錠
ロイコトリエン拮抗薬	
オノン	カプセル、シロップ
アコレート	錠
シングレア	錠、チュアブル
キブレス	錠、チュアブル
TH2サイトカイン阻害薬	
アイビーティー	カプセル、シロップ

副腎皮質ステロイド薬	
経口、注射、塗布	
コートン	錠
水溶性ハイドロコートン	錠、注
コートリル	錠
ソルコーテフ	注
サクシゾン	注
ブレドニゾン	錠、散、
ブレドニン	錠、水溶性、眼軟膏
メドロール	錠
デボ・メドロール	水懸性
ソル・メドロール	注
レダコート	錠、軟膏、注
ケナコルト-A	軟膏、注
オルガドロン	注、点眼、点耳
デカドロン	錠、注
コルゾン	錠
リメタゾン	注
セlestamin	錠
リンデロン	錠、散、シロップ、注 坐剤、点眼、
パラメゾン	錠
フロリネフ	錠
ハロアート	注
吸入用ステロイド薬	
キューパール	エアゾール
フルタイド	ロタディスク、ディスクス
パルミコート	タービュヘラー
鼻用ステロイド薬	
リノコート	カプセル(パプライザー)
サルコート	カプセル(パプライザー)
シナクリン	点鼻液
フルナーゼ	点鼻液

気管支拡張薬	
交感神経2刺激薬	
ボスミン	注、液
エフェドリン	錠、散、注
メチエフ	散、注
フェナミン	錠、散、注
メジヘラー	エアゾール
ストメリンD	エアゾール
プロタノール-L	注
アスプール	液
イソパール・P	カプセル
アロテック	錠、注、吸入液
イノリン	錠、散、シロップ、吸入液
ベネトリン	錠、シロップ、吸入液
アイミロール	エアゾール
サルタノール	インヘラー
ブリカニール	錠、シロップ、注
ホクナリン	錠、シロップ、テープ
ペラチン	錠、シロップ
メプチン	錠、ミニ錠、シロップ エア、吸入液
ベロテック	錠、シロップ、エロゾル
アトック	錠、シロップ
スピロペント	錠、細粒
ブロンコリン	錠
セレベント	ロタディスク、ディスクス
副交感神経遮断薬	
アトロベント	エロゾル
テルシガン	エロゾル
キサンチン誘導体	
テオドール	錠、顆粒、シロップ、
テオロング	錠、顆粒
スローピッド	カプセル、顆粒
ユニフィル	錠
ユニコン	錠
テオドリップ	注
コルフィリン	注
ネオフィリンM	散、注
モノフィリン	錠、散、注
ネオフィリン	錠、散、注
アルピナ	坐剤
テオコリン	錠、散
アストモリジンD/M	錠合剤(腸溶/胃溶)
アストフィリン	錠合剤